

あきる野市



町内会・自治会
連合会 会報

発行者／小山 正弘
編集／あきる野市
町内会・自治会連合会
広報部会

町自連



59

令和7年春季号

第59号

2025年、地域のつながりが、より強く、より広がるように

視察研修旅行

国立研究開発機構防災科学研究所を訪問

視察研修幹事長 西ヶ谷戸町内会
島井 武四郎

12月15.16日に会員相互の親睦と防災意識向上ため、視察研修旅行が行われ、茨城・つくばにある国立研究開発機構防災科学研究所(NIED)を訪問しました。

この研究所は、日本国内外の自然災害に関する研究を行い、防災に関する最新の技術や情報を提供する役割を担っています。

初めに、研究所の概要と施設の紹介が行われました。当初は大型実験施設の見学も予定されていましたが、急遽メンテナンス作業が入りビデオでの紹介となりました。

ブリーフィング(上)と地震体験椅子(下)



その後、展示スペースでスタッフから最先端の地震シミュレーターや24時間日本中の地震・津波・火山活動を観測している「MOVLAS(モウラス)」などの説明があり、多岐にわたる自然災害に対応する設備が整っていることが分かりました。これらの設備を用いて日々研究が進められていることに参加者一同感銘を受けました。

特に興味深かったのは、椅子型地震揺れ装置による地震シミュレーターのデモンストレーションでした。

平成7年の兵庫県南部地震「阪神淡路大震災」、平成16年の新潟県中越地震、平成23年の東北地方太平洋沖地震、平成28年の熊本地震の揺れを実際に体験でき、8名のメンバーがそれぞれ地震を選択し体験しました。

そのほか、火山活動の観測、噴火の予測技術など研究所のスタッフがやっている日々の観測や分析の一端を垣間見ることができ、非常に有意義な時間でした。

今回の視察研修を通じて、防災科学研究所(NIED)の取り組みを学び、防災に関する最新の研究と技術について深い理解を得ることが出来ました。今後の地域防災活動に役立てるための貴重な知識と経験を得ることができました。

防災科学研究所(NIED)が監修しているサイト「地震10秒診断」。是非お試しを。



令和7年になりました。私も「1年が早い」と感じるお年頃になりました。若いときは長かったのになあ…。

ところで、市役所の本庁舎（秋川）1階と五日市庁舎1階に町自連のコミュニケーションスタンドが設置されていることをご存知でしょうか？

先日、そのスタンドに1枚のレターが投函されていました。「“五日市 まちづくり通信” 町内会・自治会への回覧は、なくなりましたか？」連絡先が記載されていないので、この場で回答をしたいと思います。

私は秋川地区なので詳しい経緯はわかりませんが、「五日市まちづくり通信」は旧五日市町地区で回覧していましたが、令和5年2月に五日市活性化戦略委員会から自治会長あてに次の文章（要約）が発出されたようです。

「五日市まちづくり通信は、2018年秋から始まり、五日市の12自治会に回覧を開始し、2020年から拡充し40自治会に回覧させていただきましたが、2023年2/3月号をもって回覧を終了させていただきます。

自治会への回覧については自治会長・市にご協力いただき、配達ボランティアにより配達してまいりましたが、人員不足などにより、困難となりました。今後は各商店や武蔵五日市駅、市役所、図書館などで配布することになりました。

ご理解のほどよろしくお願いいたします。」

とのこと。

これからも、町内会・自治会への入会希望、町自連への疑問・質問・意見などにコミュニケーションスタンドをご活用ください。

ただ、お気を付け頂きたいのは、町内会・自治会・



五日市まちづくり通信



コミュニケーションスタンド

町自連向けであって、市長や市には届かないということです。そのところをご注意いただき、ご活用ください。

コミュニケーションスタンドの看板のデザインは私がしたんですよ。うまくできたと思っています、自慢です。今度よく見てみてくださいね。そして投函いただく時は、できるだけ、連絡先をご記入ください。回答等ができませんので。



防災コンクール出場

上引田チーム、まさか！の優勝



2024年12月8日の日曜日、五日市会館にて、あきる野市防災・安心地域委員会主催の第11回防災コンクールの西秋留地区代表として、西中学校生徒チーム・淵上町内会・上引田町内会の計3チームで出場して来ました。1チーム3名の選手により、地震発生から初期消火、そして要救護者に救助を競う大会です。結果からご報告いたしますと、西中学校チームが中学生の部で見事！3位に入り、淵上町内会チームも見事！3位に入りました。我が上引田チームは、まさか！まさか！の優勝と、ただただ、びっくりするばかりでした。

皆様、大変お疲れ様でした。また、ありがとうございました。
上引田町内会 清水 隆

菅生の組立舞台と菅生歌舞伎(都の有形民族文化財)

起源は明治42年の「ひとりの声から」

菅生の組立舞台の起源は明治42年に遡り、当時、芝居好きの地元住民が「舞台を造って芝居（歌舞伎）を呼ぼう」との話から舞台が造られたと言われています。

組立舞台は、町内会員により釘を1本も使用せず組み立てる技が、現在も引き継がれています。

また、昭和10年には「自分たちも芝居をやりたい」との声が上がり、猛稽古の末、公演をしたのが菅生歌舞伎の始まりで、この歌舞伎を後世に残そうと平成16年に町内会一座として旗揚げされたのが菅生一座であります。

菅生一座は、歌舞伎で使用する衣装や鬘（かつら）等は全て座員の手作りをモットーに活動しており、全国でも珍しい団体と言われています。

菅生歌舞伎は、地元の氏神である正勝神社に奉納されるとともに、市内の小中学校の歌舞伎教室でも披露されます。

菅生町内会 野口 金雄

